第8期 東久留米市地域産業推進協議会
第7回会議録

- 1 日 時 令和6年11月25日（月）午後6時00分～午後7時00分
- 2 会 場 東久留米市役所 6階 602会議室
- 3 出席者等（敬称略・五十音順）

赤星 良平	榎本 義樹	陰山 ひとみ	齋藤 真理	塩野 麻里	篠宮 昭浩
多功 敬	土田 健太郎	野崎 林太郎			

欠席：荒 昌史、石川 善則、伊藤 成美

4 議 事

1 開 会

2 挨拶

3 報 告

4 議 事

(1) 各事業部会の今後の取り組みについて（報告・質疑）

- ①イベント推進事業部会
- ②情報発信推進事業部会
- ③新産業創出推進事業部会

(2) その他

5 連絡事項

- (1) 委員からの連絡
- (2) 事務局からの連絡

6 次回協議会開催日

7 閉 会

1 開 会

【事務局】

ただいまより、第7回東久留米市地域産業推進協議会を開催する。初めに配付資料の確認をさせていただきます。

(配付資料の確認)

2 挨拶

【副会長】

・委員の方々にはお忙しい中お集まりいただき感謝している。今回の会議までにナイトマルシェ及び市民みんなのまつりがあり多忙であったかと思う。また、新産業創出推進事業部会による創業支援イベントが来週の日曜日にあり、事務局側も今期の報告書をまとめる頃かと思う。今年度に関しては今回を含めて本会が残り2回であるため、締めくくりに向かつて活発な議論をお願いしたい。

3 報 告

■ 商工会

- ・特になし

■ JA

- ・12月13日及び14日に東久留米新鮮館で歳末セールを行う予定である。
- ・12月16日に東村山新鮮館が移転予定である。

■ JC

- ・特になし

■事務局

- ・11月9日及び10日市民みんなのまつりを開催した。
- ・12月14日午後1時30分から市役所屋外ひろばで冬野菜の昼市を行う。

4 議 事

(1) 各事業部会の今後の取り組みについて（報告・質疑）

①イベント推進事業部会

■ 概 要

- ・8月26日実施の第12回部会において、ナイトマルシェのロゴマークを決定した。
- ・10月11日に第3回ナイトマルシェを開催した。今回のナイトマルシェは民間に移譲した場合でも開催可能かどうかを実験するために実施したため、開催事業者と行政の役割分担を整理して開催したところ、事務局の負担が軽減された。

- ・過去2回と比較し、今回のナイトマルシェは混雑することなく開催できた。また、周知についてはSNSのみであったが、電車やバスの乗降客がいるため一定の集客が見込めることがわかった。
- ・今回のナイトマルシェの反省としては、①出店者マニュアルは作成できたが、開催者側の事務に関するマニュアルを作成できなかった点、②作成したロゴマークを効果的に活用できなかった点が部会内で挙げられた。
- ・役割分担を明確化し、事務負担が減ったことから、3か月の準備期間でナイトマルシェを開催できる可能性が生じた。年に複数回ナイトマルシェを開催可能か検証するため、来年1月に第4回ナイトマルシェを開催することを決定した。

■ 補 足

【委員】

今回のナイトマルシェでは、出店数を減らしたどうなるか、主催を地産協から市民に任せたらどうなるかをシミュレーションすることが一番の目的であった。市民に委託後もナイトマルシェを継続するには、主催側に事務負担を減らすことが重要であるため、今回それができたのは良いと思う。反省点を活かしつつ、最終的には毎月開催できるようなイベントにできると良いと思う。

■ 質問及び回答

【委員】

今回のナイトマルシェについて、主催者を一事業者と見立てて実施したことは、民間委託を行う上で一歩前進できたように思える。

事務負担の軽減について言及していたが、事務局側の負担はどれぐらい軽減されたか。

【事務局】

今回事務局が行った事務は道路使用等の官公庁への届出のみであり、備品の確保も机の1件のみであった。そのため、当日の設営や、出店者の選定・やり取りは事務局では行わなかった。また、当日の設営も開催4時間前に始めたが、2時間前で十分であったように思えた。以上から、事務局の負担は大幅に軽減された。

【委員】

当日の最低限の会場整備や受付については、事務局が今後も負担することになるか。

【委員】

それらについても、今後は主催者が負担するようしていきたい。今回、荷下ろし場所として使用した場所については車両誘導の人員を配置しなければならなかった。そこに事務局を配置すると事務局からの切り離しがうまくいかなくなるので、出店料を多くして別の事業者へ委託等していきたい。

【委員】

荷下ろし場所の件など課題はあるが、事務局側が負担の軽減を実感していることがよくわかった。

【委員】

4回目のナイトマルシェの主催はどうなるか。

【事務局】

まだ実証実験の段階なので、地産協で行う。

【委員】

市が関係する事業であるため、出店者については公募すべきである。公募でなければ、ナイトマルシェへの出店を希望している人が参加できなくなってしまう。また、主催者が出店者を選定するのは負担が大きいように思える。主催者が出店者を募るよりは、ナイトマルシェに参加を希望している人を出店者とした方が主催者の負担は軽減されると思う。

加えて、1月に実施する場合、10月実施時よりも日没が早くなるため、開催時間も早めた方が良いと思う。

【委員】

主催者が出店者を募るのは負担が大きいですが、公募については市が関与しているからできることだと考えている。現在は過渡期であるため情報の発信がうまくできていないが、誰でも主催者になれることが伝われば、ナイトマルシェを実施したい人が自ずと主催者になると思う。

【委員】

今回、出店できずに寂しい思いをした事業者の意見も聞いている。

【委員】

出店をしたいと思うことと、主催者になりたいと思うことは別物に思える。

【委員】

確かに、出店者側にとっては冷たく感じたかもしれない。

【事務局】

ナイトマルシェの形を変えて継続的に運営可能にすることが地産協の共通の目的であると思う。今回の開催を通じて、市による公募での手法や、主催者が出店者を決める手法等、様々な開催手法を確認できた。そのような中で、出店を希望する事業者が公募でないと参加しづらいことや、短い期間で開催すると公募で行うことが難しい等、それぞれの手法に意見や課題があるかと思うが、意見や課題を発見できたことが今回の開催の成果であると思う。これらを教訓として活かしていければ良いと思う。

【事務局】

主催者の民間委託に関しては誰でもできるようにするつもりはない。ロゴマークと共にナイトマルシェを維持していくので、駅前のにぎわい創出や市内事業者のPRの場というナイトマルシェの理念に賛同できる主催者以外に委託するつもりはない。委託後も、

市内のどの事業者にも出店したいと思えるナイトマルシェにしていきたい。ただ、ナイトマルシェの理念を継続するためには、地産協が主催する以外の手法を模索する必要があることは理解してほしい。

【委員】

出店できずに寂しい思いをしたという意見があったのは、第1回、第2回と比較し出店者の募集方法が違ったことも要因であると思う。今回の手法の周知が十分でなかったという反省もあるが、過渡期ということをして市内事業者の方々に理解していただき、最終的なナイトマルシェでは参加が開かれた形にできればと考えている。

【事務局】

出店したいという事業者がいることは大変ありがたい。そのように感じてもらったのは地産協の委員の方とのつながりがあるからだと思う。その時のナイトマルシェの開催方法によって出店方法は変わるかもしれないが、そのつながりは大事にしていきたい。

【委員】

第4回のナイトマルシェのSNS周知は、事務局が行うか。それとも、情報発信推進事業部会が行うか。

【委員】

第3回は事務局が行ったがうまくはいかなかったので、情報発信推進事業部会に頼ればよかったと反省している。ただ、第2回までは地産協内部の事業として発信したが、第3回からは外部という体で発信していく必要があるのが難しい点である。

【委員】

発信方法は主催者によって変わるということか。

【委員】

来年度からは主催者を地産協から切り離し地産協は関わらない形にしていきたい。

【委員】

地域のイベントとして発信する形になるか。

【委員】

そのような形となる。今回もその形で発信したかったができなかった。

【事務局】

どのような情報発信が効果的かは課題だが、どう解決していくかまではまだ定まっていないところである。

②情報発信推進事業部会

■ 概要

- ・第3回ナイトマルシェの投稿に関し、イベント推進事業部会で投稿する形で整理を行った。
- ・12月1日開催の創業支援イベントに関し、投稿内容を整理し、投稿スケジュールを

作成した。

- ・第二小学校が取り組んでいる地域の商店会の活性化にフォーカスした授業について、成果の発表の場としてはしチョコを活用することを決定した。また、投稿スケジュールも作成した。

■ 補 足

なし

■ 質問及び回答

なし

③新産業創出推進事業部会

■ 概 要

- ・9月20日実施の第9回部会にて、12月1日実施の創業支援トークイベントについて、イベントの詳細や周知戦略を決定した。
- ・11月7日実施のオンラインミーティング内で創業支援トークイベントの講師顔合わせを行い、全体スケジュールや当日の流れを確認した。
- ・12月1日実施の創業支援トークイベントについて、イベント名を「心が湧く、アイデアが湧く、東久留米で湧く」に決定した。湧水のまちである東久留米から「湧く」という言葉を散りばめ、全体的にわくわくした時間を体験してほしいという思いを込めてデザインした。ポスター内の「#0」については、単発的な事業で終わらせるのではなく持続可能な事業にしていくというブランディングからデザインしたものである。また、参加費については1,000円に決定した。
- ・創業支援トークイベントの周知については、10月21日からはしチョコ内でカウントダウンを行い、10月25日から情報解禁し、申込の受付も開始した。情報発信については、①市やTOKYO創業ステーション多摩のホームページへの掲載、②はしチョコ、市公式SNS、中小企業基盤整備機構 LINE アカウント「起業ライダーマモル」での配信、③公共施設、金融機関、商工会、大学などの教育機関へのポスター掲示、④市報への掲載、⑤男女平等推進センター主催起業講座参加者へのDMを行った。

■ 補 足

【委員】

懇親会も行うため、委員の皆様にもぜひ創業支援イベントに参加いただければと思う。

■ 質問及び回答

なし

(2) その他

なし

5 連絡事項

(1) 委員からの連絡

なし

(2) 事務局からの連絡

■ 連絡事項

【市民部長】

本日も真摯に議論いただき大変感謝している。任期もあとわずかとなったが、まだ多くのイベントも残っているため、引き続きご尽力賜りたい。

6 次回協議会開催日

【事務局】

後日日程調整を行う。

7 閉 会

【事務局】

これにて第7回東久留米市地域産業推進協議会を閉会としたい。